



令和3年10月28日

各位

会社名株式会社 s M e d i o
代表者名 代表取締役社長 岩本 定則
(コード番号：3913 東証マザーズ)
問合せ先 取締役経営企画室長 北 埜 弘 剛
(TEL. 03-6262-8660)

**原材料の評価減の戻入及び繰延税金資産の一部取崩並びに
令和3年12月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、令和3年12月期第3四半期連結累計期間（令和3年1月1日～令和3年9月30日）において、売上原価として、原材料の評価減の戻入を計上するとともに、繰延税金資産の一部取崩しましたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績を踏まえ、令和3年2月5日に公表しました令和3年12月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 原材料の評価減の戻入の内容について

当社は、令和2年12月期連結決算及び個別決算において、原材料の評価減41百万円を売上原価に計上しておりました。

当第3四半期連結累計期間において、原材料の評価を見直した結果、全額を戻入することが適当であると判断し、売上原価に41百万円の戻入を計上しました。

2. 繰延税金資産の取崩しについて

(繰延税金資産の取崩しの理由)

半導体不足による顧客製品の生産・出荷が長引いていることから、連結売上高の7割を占めるロイヤリティ収入が低迷し、半導体不足の解消時期が不透明である事業環境を踏まえ、当社及び連結子会社において、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産の一部を取り崩すことといたしました。

(繰延税金資産取崩しの内容)

令和3年12月期の第3四半期連結決算において、当期首に計上していた繰延税金資産を取崩し、法人税等調整額を15百万円（8百万円）計上しました。

()の金額は、当社単体での繰延税金資産取崩しの内容になります。

3. 業績に与える影響

上記1及び2につきましては、本日公表の「令和3年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において反映しております。

4. 令和3年12月期通期連結業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	1,034	53	53	36	18.81
今回修正予想(B)	721	0	4	△16	△8.76
増減額(B)-(A)	△312	△53	△49	△53	△27.58
増減率(%)	△30.2	△98.6	△92.5	—	—
(ご参考)前期実績(令和2年12月期)	913	32	30	10	5.36

(注) 1株当たり当期純利益は、令和3年1月から令和3年9月までの期中平均株式数1,933,051株を用いて算定しております。

5. 業績予想修正の理由

当社の主な収益源であるロイヤリティ収入について、半導体不足により、顧客製品の生産・出荷に影響が出ており、当社製品搭載の出荷・販売数が減少したことで、ロイヤリティ収入が当初想定と比較して、295百万円減少する見込みとなったことから、業績予想を修正いたします。

(連結売上高)

当第3四半期連結累計期間(1-9月)の連結売上高が560百万円となり、通期計画(1,034百万円)に対する進捗率は54%程度でありました。

世界的な半導体不足を一時的と考えておりましたが、現在に至るまで、半導体不足は解消しておらず、当社顧客の製品製造・出荷数にも影響を与えています。半導体不足は、第4四半期連結会計期間(10-12月)も継続するとの前提で、売上見込みを見直したところ、連結売上高は160百万円程度になることが見込まれます。

見直した通期連結売上高は、721百万円となり、当初計画を30%程度下回る水準になります。

収益区分別では、特に、ロイヤリティ収入が半導体不足の影響を受けており、当第3四半期連結累計期間(1-9月)までの下振れ額を、第4四半期連結会計期間(10-12月)で取り戻すことは困難な水準であり、第4四半期連結会計期間(10-12月)のロイヤリティ収入も、当初計画150百万円を下回る125百万円になると見込んでおります。

上記の影響を勘案し、令和3年12月期の通期連結売上高は、721百万円を見込んでいます。

(連結営業損益)

当第3四半期連結累計期間(1-9月)の連結売上高は低調であった中で、継続的な原価低減および経費節減に加え、原材料の評価減の戻入があったことで、連結営業利益は11百万円を確保しました。

第4四半期連結会計期間(10-12月)も、引き続き、原価低減および経費節減に努めてまいりますが、連結売上高の減少が大きく、通期での連結営業利益は、当初計画を下回り、0百万円となる見込みであります。

(連結経常損益)

連結営業利益が当初計画を下回る見込みの影響で、連結経常利益は4百万円となる見込みであります。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

当第3四半期連結累計期間(1-9月)で、繰延税金資産を取り崩した影響で、税金費用が発生しているため、親会社株主に帰属する当期純損益は、16百万円の損失となる見込みであります。

(為替前提)

第4四半期連結会計期間(10-12月)における為替水準は、直近の為替水準を反映し、下表のように想定しております。

	米ドル	中国・人民元
第4四半期連結会計期間	110.00円(103.00円)	17.00円(16.00円)

※()内は、変更前の想定為替水準。

(注)上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき算出しており、実際の業績は今後の様々な要因により異なる場合があります。

以上